

卒業生インタビュー

NO 6

立命館大学 総合心理学部

教授 矢藤 優子 先生 (43期生)



○出張講義の前にインタビュー

平成29年11月17日(金) 立命館大学総合心理学部教授の矢藤優子先生をお招きして、出張講義をお願いしました。

テーマは「社会で生きる心理学—科学的根拠に基づく対人援助をめざして—」です。1年生・2年生120名が受講しました。

矢藤先生は本校43期の卒業生でもあります。そこで今回出張講義に合わせてインタビューをさせていただきました。

矢藤先生が勤務されている立命館大学総合心理学部は大阪の茨木にあり、今年の夏に2年生が大学見学をさせていただいた大学でもあります。

早速、高校時代のことをストレートにお尋ねしてみました。すると矢藤先生は実は帰宅部で、遅刻や早退も結構あった生徒で、担任の先生に心配をかけたと笑っておられました。でも勉強は大好きで特に英語はよく勉強されたそうです。その当時の英語学習が学会のプレゼンテーションスキルのベースになっているとのこと。 (英語で一時間くらいスピーチされるそうです) 高校時代の英語学習は無駄にはならないし、大いに役に立っているとのこと。

○大学選びについて - 大学で何をするのが大切！



次に大学選びについて質問してみました。矢藤先生は大阪大学へ進学されるにあたって担任の先生のアドバイスが大きかったと話されていました。当時は「母子関係」や「人間をつくっているもの」に興味があったそうです。進路について担任に相談すると「君にぴったりの大学がある」と勧められたのが「大阪大学 人間科学部」だったそうです。

大阪大学人間科学部は理系と文系を合わせた研究領域が研究分野となるそうです。具体

的には霊長類の観点からニホンザルの行動等を観察して人間と比較研究することがテーマだったそうです。大学時代は勉強一筋で部活動やサークルには所属されなかったとのこと。 「本当にやりたいこと」が大学にあったという印象を受けました。

在校生の皆さんはいかがでしょう？何か「やりたいこと」があるのでしょうか？

矢藤先生からアドバイスがありました。大学選びについては大学のネームバリューや偏差値のランキングで選ぶのではなく「何を勉強したいのか」「学部で何を学ぶのか」で大学選択をしてほしいと力説しておられました。

最近大学のHPには大学が実践されている研究分野の解説や担当教授のメールアドレスも掲載されている場合もあり、コンタクトしてほしいとおっしゃっていました。大学の入試広報でも対応してもらえるそうです。

○研究職という仕事 – 「させられている」から「やりたい」へ



研究職に進まれた理由をお尋ねしてみました。矢藤先生はやはり勉強が好きだったことが一番だし、勉強したことで「自分が成長していることを感じるができるから」と自己分析されていました。「させられている」のではなく「やりたい」この違いは大きいと力説されていました。

研究職の就職活動もなかなか大変だそうです。大学や研究所の採用情報を調べてエントリーをしてキャリアを積み上げていくそうです。

先生の場合、関西電力原子力安全システム研究所、富山短期大学、JST（科学技術振興機構）研究員、そして現在の立命館大学と全国飛び回っておられました。

高校の勉強も同じですね。皆さんも「させられている」のではなく「これがやりたい」その視点で模索してほしいですね。

最後に総合心理学部の卒業生の就職についても質問してみました。心理学分野だと「カウンセラー」「公認心理師」「精神保健福祉士」等をイメージしてしまいます。

実は心理学を学んだ学生に対して民間企業から求人も多いそうです。教員になる学生、人間関係のマネジメントができるということで人事関係の仕事、介護関係、知覚心理学を学ぶと色彩が人間に与える影響を調べるような研究分野があるそうです、例えばカメラ関係の企業、いろいろなバリエーションがあり就職でも有利だそうです。皆さんもいろいろ大学について調べることは多そうですね。



矢藤先生、長い時間ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。